

真弓山城(足助城, 松山城, 足助松山の城)

(豊田市足助町須沢 39-2) (城跡公園足助城)

真弓山城（まゆみやまじょう）は三河国加茂郡足助庄（現・愛知県豊田市足助町）の真弓山（標高 301 メートル）にあった城。現在では「城跡公園足助城」として整備・公開されている。

概要

「足助城」「松山城」「足助松山の城」などと呼ばれ、かつては足助氏の築いた足助七屋敷の 1 つと推測されていたが、後述の発掘調査で足助氏の時代の遺構が検出されなかったことなどから、現在では戦国時代にこの地を治めた足助鈴木家の本城であったと考えられている。築城時期は不明。

大永 5 年（1525 年）に松平清康がこの城を攻めた記録が残り、この際に清康の妹・久を 2 代鈴木重政の嫡子・重直に嫁すことで一旦は松平氏に下っている。その後は離反帰服を経て、永禄 7 年（1564 年）に松平家康に攻められたのちは完全に服属し、以降は松平氏の家臣団として戦った。

天正 18 年（1590 年）、家康の関東入国に従って鈴木氏も足助を離れ、真弓山城は廃城となった。

城跡公園足助城

城の復元

地元では古くから香嵐溪の象徴とも言える飯盛山に城を築きたいとの考えがあり絵図面が引かれたこともあったという。

1989 年（平成元年）に愛知県が開始した「愛知のふるさとづくり事業」と国のふるさと創生基金を合わせて城の復元を行なうことが計画されたが、飯盛山は県の史跡指定がなされていることや、時代が古いために櫓など小規模な復元にとどまることなどから、戦国時代の城である真弓山城を復元することが決定され、1990 年から 1992 年にかけて発掘調査と復元が行なわれた。

事業にあたっては幾つかのコンセプトが定められた。

1. 戦国時代の鈴木氏の城を復元する。
2. 事前に発掘調査を行い、建物跡を検出できた場合は、それに基づいて復元をする。そして、遺跡保存の観点から、盛り土等で遺構面の保護をする。
3. 建物跡を検出できない場合は、絵図等が残されていないので、想定で復元する。ただし、石摘みの白亜の天守閣はつくらない。
4. 城館の復元だけでなく、戦国時代の生活を浮かび上がらせる工夫を行なう。

発掘調査ののち、本丸には高櫓と長屋、西の丸に物見矢倉、南の丸にも物見台や厨、また各所に板塀などが復元され、1993 年（平成 5 年）5 月に「城跡公園足助城」として開城した。

Wikipedia による

全国で初めて復元された山城です。発見された掘っ立て建築の柱跡にあわせて再現。材料も、当時にあわせて竹の釘や麻縄を利用しています。城跡公園として整備されているので、山城に慣れていない人でも快適に見学することができます。歴史ファンの方はもちろん、そうでない人でも、戦国時代に思いを馳せて楽しむことができる城です。

足助城は、標高 301m の真弓山の山頂を本丸としています。真弓山は、足助の町並みを眼下に見下ろすことができる要衝の地。発掘調査では、15 世紀以降に鈴木氏が築城した跡と考えられる遺跡が発見されています。鈴木氏は、戦国時代に西三河山間部に勢力をもっていた一族。家康に従って関東に移ったため、足助城は廃城となったとされています。

一説では、足助城は鎌倉時代に足助氏が居城したという「足助七屋敷」のひとつとも伝えられています。

豊田市観光協会による

